

令和元年度 事業報告 (美術館)

自 平成 31 年 4 月 1 日

至 令和 2 年 3 月 31 日

公益目的事業 2 (展覧会事業)

1. 「inspiration or information?」展の開催 (37 日間 デザインオフィス nendo と共催)

- ア. 名称 「サントリー芸術財団 50 周年 nendo ×Suntory Museum of Art
inspiration or information? 右脳と左脳でたのしむ日本の美」
- イ. 会期 平成 31 年 4 月 27 日 (土) ~ 令和元年 6 月 2 日 (日)
- ウ. 概要 人は美しいものに出会ったとき、2 種類の感動を覚える。1 つは作品の背景や製作過程、作者の意図や想いを知ることによって生まれる感動、そしてもう 1 つは、ただただ理由もなく心が揺さぶられる感動。本展では、デザインオフィス nendo 代表・佐藤オオキ氏の提案に基づき、左脳的なアプローチ、右脳的な感じ方の双方で日本の美術の新しい鑑賞方法を紹介。当館としてはこれまでにない試みとなったが、来館者から概ね好意的なご意見をいただいた。また 40 才以下の来館者がおおよそ 7 割を占める等、通常の来館者層とは違う、新たなファン層を当館に呼び込む展覧会となった。
- エ. 展示
- | | |
|----------------|------------|
| 薩摩切子 藍色被船形鉢 一口 | サントリー美術館 |
| 白泥染付金彩芒文蓋物 一合 | サントリー美術館 |
| 御所車桜蒔絵提重 一基 | サントリー美術館 他 |

2. 「遊びの流儀」展の開催 (48 日間 朝日新聞社と共催)

- ア. 名称 「サントリー芸術財団 50 周年 遊びの流儀 遊楽図の系譜」
- イ. 会期 令和元年 6 月 26 日 (水) ~ 令和元年 8 月 18 日 (日)
- ウ. 概要 これまで、美術のテーマとなった「遊び」。本展ではこの「遊び」に着目し、双六やカルタ、舞踊やファッションなど、男女が熱中し楽しんだ様々な遊びの変遷を追うとともに、特に近世初期の「遊楽図」の名品を通して、ある時は無邪気に、またある時はものうげに遊び暮らした先人たちの、遊びの極意や、浮世を生きる術に、思いを馳せていただくことを目的に開催。美術愛好家からの高い評価や美術専門メディアでも多くの露出を獲得する等、当館の企画力の高さを存分にアピールすることが出来た。
- エ. 展示
- | | |
|--------------------|------------|
| 国宝 松浦屏風 (右隻) | 大和文華館 |
| 重文 十二ヵ月風俗図 | 山口蓬春記念館 |
| 重文 清水・住吉図蒔絵螺鈿西洋双六盤 | サントリー美術館 他 |

3. 「美濃の茶陶」展の開催（59日間 読売新聞社と共催）

- ア. 名称 「サントリー芸術財団 50周年 黄瀬戸・瀬戸黒・志野・織部—美濃の茶陶」
- イ. 会期 令和元年9月4日（水）～令和元年11月10日（日）
- ウ. 概要 茶の湯のための、新しい日本のやきものが創造された桃山時代。美濃（岐阜県）では、力強い形姿、色彩、意匠をもつ新しい茶陶「黄瀬戸・瀬戸黒・志野・織部」がいつせいに花開いた。本展では、当時の美術工芸諸分野との比較も試みながら、その大らかで、個性的な造形的魅力の秘密に迫りつつ、美濃の茶陶が大正時代から昭和にかけて再び高い評価と人気を得てゆく様相を数々の名品を通じ紹介。開幕後は天候不順が続き、また台風の影響で休館日も出る等の不運に見舞われたが、希代の名品を取り揃えた、美術史から見ても価値のある展覧会として、当館の価値向上に大いに寄与した。
- エ. 展示
- | | |
|---------------|------------|
| 国宝 志野茶碗 銘 卯花塙 | 三井記念美術館 |
| 重文 黄瀬戸大根文輪花鉢 | 相国寺 |
| 鼠志野柳文平鉢 | サントリー美術館 他 |

収益事業

1. 物販事業

所蔵品をモチーフとした商品開発、展覧会内容・季節の催事を取り入れた店頭ディスプレイにより、お客様に繰り返し足を運んでいただける魅力的なミュージアムショップを目指した。

2. 飲食事業

「加賀麩 不室屋」の老舗ならではの信頼感とブランド力を活かしつつ、現代の感性を取り入れたメニューを提供し、新規顧客の拡大とリピーターの増加を目指した。

3. 貸室事業

「茶室」の貸出を通じて、収益を得るだけでなく、日本の伝統文化の啓蒙という当館ならではの価値訴求を心掛けた。

以 上